

人材養成および教育研究上の目的

電気工学専攻においては、開発・研究に携わる人材を育成すると同時に、電気工学を核に幅広い工学分野に対処できる技術者を育成することを目的とする。

三つの方針（三つのポリシー）

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)	学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)	
<p><博士課程前期></p>			
<p>工学研究科電気工学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士(工学)の学位を授与する。</p>			
<p>知識・理解</p>	<p>【学修成果の目標】 電磁気学、電気回路を基礎に置いた電気工学の専門知識を取得し、現実の現象・法則を説明し、活用できる。(DP1)</p> <p>【到達指標】 電気工学の専門知識をしっかりと理解した上で、研究課題に活用して、課題に関する現象・挙動を説明できるようになり、合計30単位以上を取得する。(DP1)</p>	<p>【教育課程の編成】 専門を深化させる専修科目と他の分野である多数の非専修科目を自ら選択し、専修の指導教員から特別研究、特論を1年次、2年次を通して個別に研究指導を受ける。(DP1)</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 各授業を受講するとともに、専修科目では指導教員から先端的な工学の知識を習得する。いずれも、少人数制による指導を行う。(DP1)</p> <p>【学修成果の評価方法】 授業では発表・レポート・テストにより評価する。(DP1)</p>	<p>【求める学生像】 電磁気学・電気回路をはじめ、電気工学の専門科目を修得し、研究・開発への意欲を持つ人を求める。</p>
<p>技能</p>	<p>【学修成果の目標】 電気工学の専門知識を用いて、研究課題を解決にも導くために、設計・計測・計算技術など必要な電気工学の専門技術を身に付ける。(DP2) 研究成果の発表のために必要なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力およびディスカッション能力を身に付ける。(DP3)</p> <p>【到達指標】 研究課題の解決のために、必要な文献調査能力、および計測・計算の技術身に付ける。(DP2) 研究調査や成果などの内容を的確に伝え、聴衆の疑問点に関して的確に答えることができる。(DP3)</p>	<p>【教育課程の編成】 各専修において、特別実験、特論をとおして、課題解決のために、設計・計測・計算技術を身に付ける。(DP2) 研究発表に必要なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、ディスカッション能力を身につける。(DP3)</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 指導教員の助言、指導の下、少人数でのゼミ、研究課題に関する調査および実験を遂行する中で、様々な文献の調査方法・計測技術や計算技術を修得する。(DP2) 指導教員が管轄するゼミなどの中で、プレゼンテーションやディスカッションを行い、コミュニケーション能力を涵養する。(DP3)</p> <p>【学修成果の評価方法】 専修科目での研究課題の取り組み状況で評価する。具体的には、課題研究に必要な文献調査、計測技術、計算技術などの技術の習得状況を評価する。(DP2) プレゼンテーションやディスカッションを行い、コミュニケーション能力に関しては、ゼミでの発表の様子等を評価する。(DP3)</p>	<p>【入学者選抜の在り方】 一般入学試験 電気工学の基礎学力、文献調査や発表などに必要な英語運用能力を有しているのかおよび勉学の意欲を有しているのか、筆記試験と面接試験で判定する。なお、学部の成績優秀者には推薦入試制度、福岡大学工学部電気工学科で成績が特に優秀な学生には飛び級での一般入試の受験を認める。 推薦入学試験 本専攻で学ぶために必要な基礎学力を有していると認められる福岡大学工学部電気工学科の成績優秀者に対しては、面接試験による推薦入学試験を行う。 社会人入学試験 書類審査、小論文、面接による社会人入学試験を行う。 留学生入試 一般入試と同様の試験を行う。ただし、最終学校を卒業後日本国内で社会人経験3年以上の者は社会人入学試験と同様の試験を行う。 日本語および英語コミュニケーション力については、語学検定試験のスコアにより評価する。</p>
<p>態度・志向性</p>	<p>【学修成果の目標】 問題に取り組んだ際に問題の意味・原因および様々な解決策を考えた上で、最適な解決策を見つけ出そうとする態度と志向性を身につける。(DP4)</p> <p>【到達指標】 修士論文の審査に合格する。(DP4)</p>	<p>【教育課程の編成】 取り組んだ研究課題を解決に導くには、どのような態度で、どこに興味・力点を置いて調査・実験・計算を敷けばよいのかについて、専修科目の研究・実験を通して、指導教員が修士(工学)にふさわしい態度・指向性を指導する。(DP4)</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 各専修部門ごとに、ゼミ・実験・実習形式など少人数による集中教育を行う。(DP4)</p> <p>【学修成果の評価方法】 他の研究との差異を明確にし、研究の独自性を担保した修士論文研究を遂行できたのかを評価する。(DP4)</p>	<p>（この欄は上記の「求める学生像」および「入学者選抜の在り方」の意図を補完する内容として、具体的な評価方法や留意点を記載する）</p>

人材養成および教育研究上の目的

電気工学専攻においては、開発・研究に携わる人材を育成すると同時に、電気工学を核に幅広い工学分野に対処できる技術者を育成することを目的とする。

三つの方針（三つのポリシー）

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)	学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)	
＜博士課程前期＞			
<p>工学研究科電気工学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士（工学）の学位を授与する。</p>			
<p>知識・理解</p>	<p>【学修成果の目標】 電磁気学、電気回路を基礎に置いた電気工学の専門知識を取得し、現実の現象・法則を説明し、活用できる。(DP1)</p> <p>【到達指標】 電気工学の専門知識をしっかりと理解した上で、研究課題に活用して、課題に関する現象・挙動を説明できるようになり、合計30単位以上を取得する。(DP1)</p>	<p>【教育課程の編成】 専門を深化させる専修科目と他の分野である多数の非専修科目を自ら選択し、専修の指導教員から特別研究、特論を1年次、2年次を通して個別に研究指導を受ける。(DP1)</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 各授業を受講するとともに、専修科目では指導教員から先端的な工学の知識を習得する。いずれも、少人数制による指導を行う。(DP1)</p> <p>【学修成果の評価方法】 授業では発表・レポート・テストにより評価する。(DP1)</p>	<p>【求める学生像】 電磁気学・電気回路をはじめ、電気工学の専門科目を修得し、研究・開発への意欲を持つ人を求める。</p>
<p>技能</p>	<p>【学修成果の目標】 電気工学の専門知識を用いて、研究課題を解決にも導くために、設計・計測・計算技術など必要な電気工学の専門技術を身に付ける。(DP2) 研究成果の発表のために必要なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力およびディスカッション能力を身につける。(DP3)</p> <p>【到達指標】 研究課題の解決のために、必要な文献調査能力、および計測・計算の技術身に付ける。(DP2) 研究調査や成果などの内容を的確に伝え、聴衆の疑問点に関して的確に答えることができる。(DP3)</p>	<p>【教育課程の編成】 各専修において、特別実験、特論をとおして、課題解決のために、設計・計測・計算技術を身に付ける。(DP2) 研究発表に必要なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、ディスカッション能力を身につける。(DP3)</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 指導教員の助言、指導の下、少人数でのゼミ、研究課題に関する調査および実験を遂行する中で、様々な文献の調査方法・計測技術や計算技術を修得する。(DP2) 指導教員が管轄するゼミなどの中で、プレゼンテーションやディスカッションを行い、コミュニケーション能力を涵養する。(DP3)</p> <p>【学修成果の評価方法】 専修科目での研究課題の取り組み状況で評価する。具体的には、課題研究に必要な文献調査、計測技術、計算技術などの技術の習得状況で評価する。(DP2) プレゼンテーションやディスカッションを行い、コミュニケーション能力に関しては、ゼミでの発表の様子等を評価する。(DP3)</p>	<p>【入学者選抜の在り方】 一般入学試験 電気工学の基礎学力、文献調査や発表などに必要な英語運用能力を有しているのかおよび勉学の意欲を有しているのか、筆記試験と面接試験で判定する。なお、学部の成績優秀者には推薦入試制度、福岡大学工学部電気工学科で成績が特に優秀な学生には飛び級での一般入試の受験を認める。 推薦入学試験 本専攻で学ぶために必要な基礎学力を有していると認められる福岡大学工学部電気工学科の成績優秀者に対しては、面接試験による推薦入学試験を行う。 社会人入学試験 書類審査、小論文、面接による社会人入学試験を行う。 留学生入試 一般入試と同様の試験を行う。ただし、最終学校を卒業後日本国内で社会人経験3年以上の者は社会人入学試験と同様の試験を行う。 日本語および英語コミュニケーション力については、語学検定試験のスコアにより評価する。</p>
<p>態度・志向性</p>	<p>【学修成果の目標】 問題に取り組んだ際に問題の意味・原因および様々な解決策を考えた上で、最適な解決策を見つけ出そうとする態度と志向性を身につける。(DP4)</p> <p>【到達指標】 修士論文の審査に合格する。(DP4)</p>	<p>【教育課程の編成】 取り組んだ研究課題を解決に導くには、どのような態度で、どこに興味・力点を置いて調査・実験・計算を敷けばよいのかについて、専修科目の研究・実験を通して、指導教員が修士(工学)にふさわしい態度・指向性を指導する。(DP4)</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 各専修部門ごとに、ゼミ・実験・実習形式など少人数による集中教育を行う。(DP4)</p> <p>【学修成果の評価方法】 他の研究との差異を明確にし、研究の独自性を担保した修士論文研究を遂行できたのかを評価する。(DP4)</p>	